

3. 郷土のあゆみ

(1) 箕輪が原の開発

開発前の箕輪

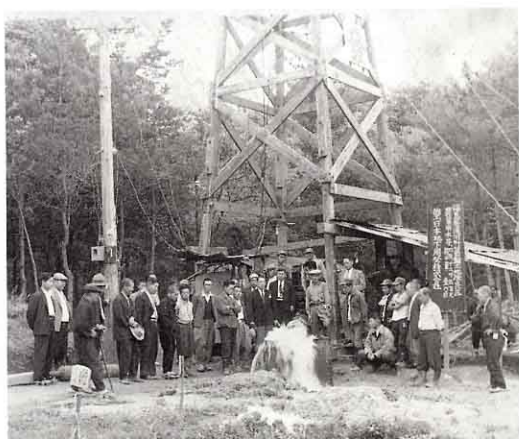
箕輪地区は、昭和27年頃まで、毎年干ばつになやまされてきました。たよりになるのは、3つの貯水池でしたが、十分にかんがいをするだけの水はなく、雨の降るのを待たなければ、田植えができませんでした。

箕輪が原の開発

箕輪が原は「浅川原」と呼ばれ、広い草原でした。長老の小針伝氏をはじめ、箕輪の人々は、この地に、ボーリング（井戸をほること）を考えました。そして、昭和27年から3年近くのさい月をかけて、ボーリングを完成させました。



およそ45年くらい前の浅川原



ボーリングをし、地下水がわき出たところ



水田作りに使われた機械のセミクローラー